

# 川崎 晴久

Haruhisa Kawasaki

## 川崎晴久プロフィール

1951年10月21日 静岡県浜松市に生れる。  
1969年、反戦活動により高校中退、上京する。漫画家のアシスタントになるつもりが 漫画雑誌 COM (虫プロ発行) 編集部にまぎれこむ。「火の鳥」の原稿取りになり、手塚番となる。



連作 蒼いひょうたん

描きためたシュールなイラストを手塚治虫氏に「個性的だね」とおだてられたかほめられたか定かではないが秘かにアーティストになる決意を固める。

1972年虫プロが倒産する前に辞め、東京水道橋の美学校にてシュールレアリスト中村宏氏より油彩を学ぶ。サイケとアングラにはまり魂の革命を志すが病気になる、天理教修養科に入り古神道にふれるが教団の歯車になることを拒否する。

故郷でカウンターカルチャー文化運動らしきものに関わるが、生ぬるいとアングラ劇団イベントを手がける。劇団にきらわれ、1977年再上京。土方と酒の日々が

続き、1980年、胃に穴があいて病室のベッドに横たわる自分を見る。天国で「まだ早すぎる」と言われ現世に復帰、神と天使に出逢い結婚する。

1981年、故郷でフリースペーススナックを開業するが赤字の穴うめのためにチリ紙交換をする。

1982年、マガジンハウス ANAN 金の絵本賞入選 10万円を手にするが、新たに手がけた古着屋「カルチャーマーケット」が当たり、上京してイラストレーターになるよりも、地方のはみ出し野郎と共に、地球芸術家の道を選ぶ。

1986年 チェルノブイリの雨に打たれ、絵を描きつづる。

1988年、カード集「いのちのいのり」出版。  
ダダイスト=ヨシダミノル氏に逢い、1990～1991、「六ヶ所村への道」に参加、「祭りアート」に目覚め、尺八・笛の即興演奏を各所で転ずる。



プルトニウムバビロン



連作 天馬博士の夢